

## 心(ココロ)を鍛える“志”教育の実践報告

Report of forging student's mind thorough  
Kokorozashi-education practice course

久 恒 啓 一\*  
Keiichi HISATSUNE

### 要約

自身のロールモデルを発見し、最終レポートとしてパワーポイントを用いて「私のロールモデル〇〇〇〇の人生鳥瞰図」を作成し、ワードを用いて「私のロールモデル〇〇〇〇から学んだこと」をレポートできる力を身につけるまでの成果を上げている授業実践を報告する。

#### ・講義目的（シラバス）は以下の通り。

ビジネスはコミュニケーション活動によって成り立っており、その活動を担うのは人である。経営資源を束ねる人的資源の重要性はますます高まっている。今後はキャリア形成を含むライフマネジメントの視点から人的資源の活性化を考えながら、組織や経営やビジネスについて考察することが求められる。

この講義においては、近代日本を作った明治期を中心とするわが国の志を実現した偉人の生（経営者・政治家・芸術家・作家・ジャーナリスト）の資料や YouTube の映像を題材に、いくつかの切り口—仰ぎ見る師匠の存在、敵との切磋・友との拓磨、持続する志、怒涛の仕事量、修養・鍛錬・研鑽、飛翔する構想力、日本への回帰—を用いて今日の産業社会で生きるための問題解決の知恵について学び、自らの志とライフマネジメントについて深く考えてもらう。

#### ・到達目標（シラバス）は以下の通り。

自身のロールモデルを発見し、最終レポートとしてパワーポイントを用いて「私のロールモデル〇〇〇〇の人生鳥瞰図」を作成し、ワードを用いて「私のロールモデル〇〇〇〇から学んだこと」をレポートできる力を身につける。

この講義は毎年、受講生は毎年 200 人ほどで多い。毎回、前日の木曜日に開催された「リレー講座」の講師の講義内容を図解メモを用いて解説している。

---

\* 多摩大学経営情報学部 School of Management and Information Sciences, Tama University

実習のテーマは以下の通り。

以下、授業で取り組んだ偉人の志のテーマを列举する。

- ・「近代日本のわが国の偉人たちのライフマネジメント」立志人物論の位置づけ・「本物の条件」7つの共通項を紹介・エニアグラム
- ・「仰ぎ見る師匠の存在Ⅰ」 阿久悠の映像・エニアグラム9つのタイプ
- ・「仰ぎ見る師匠の存在Ⅱ」 吉田松陰・高杉晋作・福沢諭吉・北里柴三郎・小泉信三・岡倉天心・横山大観
- ・「敵との切磋、友との拓磨Ⅰ」 志賀直哉・武者小路実篤・正岡子規・夏目漱石・秋山真之・西田幾太郎
- ・「敵との切磋、友との拓磨Ⅱ」 岡本太郎・ピカソ・三島由紀夫・川端康成・大鵬・柏戸・イチロー・松井・ビルゲイツ・スティーブジョブズ
- ・「持続する志」 牧野富太郎・大山康晴・池波正太郎・原敬・村野四郎・佐藤一斎・市川房江・羽仁もと子・宮城まり子・藤沢周平・徳富蘇峰
- ・「怒涛の仕事量Ⅰ」 寺山修司・手塚治虫・石ノ森章太郎・藤子不二雄・赤塚不二夫
- ・「怒涛の仕事量Ⅱ」 樋口一葉・与謝野晶子・白洲正子・高野悦子・石井桃子・向田邦子・緒方貞子
- ・「修養・鍛錬・研鑽」 安岡正篤・新渡戸稲造・二宮尊徳・野口英世・サトウハチロー・本多静六・朝倉文夫
- ・「飛翔する構想力」 後藤新平・水戸光圀・宮脇俊三・辻村寿三郎・嘉納治五郎・松下幸之助・棟方志功
- ・「日本への回帰」 司馬遼太郎・梅棹忠夫・東山魁夷・柳田國男・岡倉天心・小野道風・柳宋悦・古賀政男
- ・「人物モデルの人生鳥瞰図作成Ⅰ」 ロールモデルの事例図の紹介・人生鳥瞰図作成実習
- ・「人物モデルの人生鳥瞰図作成Ⅱ」 事業家・経営者を紹介・ロールモデルの人生鳥瞰図作成実習
- ・「人物モデルの人生鳥瞰図作成Ⅲ、Ⅳ」 ロールモデルの人生鳥瞰図作成実習

この授業では毎回出席の確認を兼ねて、A4一枚の自由記述のアンケートを書いてもらっている。授業の理解、疑問点、要望などを整理して配布し、次回の講義の冒頭にこれらの紹介と意見を述べることにしている。

授業の成果として、各年度の最終回のアンケートのまとめを掲載する。

## 立志論Ⅳ <講義を受けて、あなたはどのように変わりましたか？講義の感想> 1

自分の生き方に対して自信を持たせてくれるような名言を聴いたとき、くじけそうだった私の心が救われました。岡本太郎というロールモデルに出会ったことが私を変えてくれました。

自分と照らし合わせ、今後自分がどう生きていけばいいのかを考えるようになりました。

最後の「外的世界の拡大は内的世界を深化させる」という言葉に、あてはまるような成長ができた。

「もっと素晴らしい人間になろう！」という熱い気持ちを持つことができました。

目標を見つけたので、何をすればいいかを、段々と見れるようになりました。

人生観が変わった。

世界観が変わった。

人生は粘土みたいな物で、色々な形に変わるから面白いと思う。

日記を書き始めたら、毎日が充実してきました。

偉人たちはみな本を良く読んでいたことが分かりました。

毎日ブログを書くことによって、その日を振り返り、反省ができるようになった。一日一日を大切に考えるようになった。

有名な人物の格言を調べてみたい。本をたくさん読もう。

人生計画を立てることの大切さを知りました。

一日一日無駄にしないように生きて行きます。

最近の有名人も話題に取り入れられていて聞きやすかった。何年後かの人生設計を紙に書くことで、今までの自分の振り返りと自己発見をし、将来やりたい仕事が見つめてきました。

偉人は一人として楽をしている人がいませんでした。

遅咲きで充分という言葉に救われた。

よく本を読むようになりました。

ヒトに興味を持つようになりました。

偉人を「ただの凄い人」→「こういうところが凄い人」という目線で見れるようになった。歴史や背景を理解することによって、これからの人生に活かせるような気がする。

一般の人は「勇ましい高尚な人生」を残せる。と、言っていました。祖父がそうだったので納得した。

この講義は、先人たちの英知を一身に受け、やるべき事、どう生きるかを問い正してくれる講義で、受けて良かった。

成長や成功をするには、毎日継続して勉強や訓練をするということが分かった。

樋口一葉を調べて、学ぶことを諦めず家族を一番に思ってきた生き方が女性として人としても尊敬でき、目標にしたい人物となりました。

本やテレビなどで、この人はすごいと思う人に会った時に、自然と、その人物の性格や考え方を分析し、またインターネットなどで調べるようになりました。

授業で人生のアドバイスや励ましを受け続けてきた印象です。

人生鳥瞰図は自分を見つめ直すツールとしては最適。

図解は今後の就活などにとでも役立つものだと感じた。

人々の記憶に残るような人物になりたい。

自分に足りない物や長所などエニアグラムのタイプの解説でよく自分を分析できました。

これからYouTubeを見て学んでいきたい。

先生が色々な方の博物館へ行っているのを知り、私も博物館めぐりをしたいと思うようになりました。

ポジティブに物事を考えるようになりました。

## 立志論Ⅳ <講義を受けて、あなたはどのように変わりましたか？講義の感想> 2

これからの生き方の参考になり、生きて行く上でのロールモデルも決まった。

特に文豪達のお話は大好きでした。

「志」の重要性が分かった。

講義を受けて、新しいことにチャレンジしたくなりました。

自分を、選んだ人物と照らし合わせると、共感できるところもあり嬉しく思った。

緒方貞子がやってきた仕事内容にはとても感動した。

エニアグラムも面白かった。

偉人達は皆、人生の一分一秒を全力で生きていて見ていても清々しいものでした。講義を受けて自分の価値観が180度変わったと思います。

ロールモデルとして見つめ直すことで、今までと少し違った目線で捉えることができ、自分の人生のヒントが見えた。

日頃YouTubeで先生が紹介している人の名言をチェックして、日々成長している。

就活を来年に持ち越そうと諦めていましたが、この授業で紹介されてきたあらゆる人物を見ていくうちに、もう少し頑張ってみようと思うようになりました。

人物について図を書くと、知らなかったことがたくさんあり、驚いた。

時間は限られていて、いかに上手に使っていくことが自分の人生をより豊かにすることだと思う。

知らない偉人ばかりだったので、新鮮な気持ちで授業を受けることができた。

本を読むようになった。

日々の生活に対する考え方が変わっていったと思う。

偉人の生涯を、歴史という枠でなく今とつなげて見ていこうと視点が変わった。

偉人の名言や生き様を知り、生きることが少し楽になった。

ロールモデルを決めることにより、自分がどうなりたいのか改めて考えることができた。

人生の目標を持つことができるようになった。数々の偉人達の言葉に勇気づけられた。

多少だが本を読むようになり、趣味の分野が広がった。パワーポイントで図が製作できるようになった。

どんな人にも目標とする人がいることが分かった。

日本にはすごく尊敬できる人がたくさんいると思いました。何か一つを徹底的に極めてみようと思うようになりました。

よい自己啓発になるのではないかなと思う。

日本人の偉人は素晴らしい人が多く、誇らしいと思った。

新渡戸稲造など、名前は知っていても実際何をしていた人なのか知らないことを学べて良かった。

人物によって言う言葉は、それぞれ違い意味も異なり、深い意味を持っていると感じた。

日々の行動を少しずつ変えていこうと思いました。

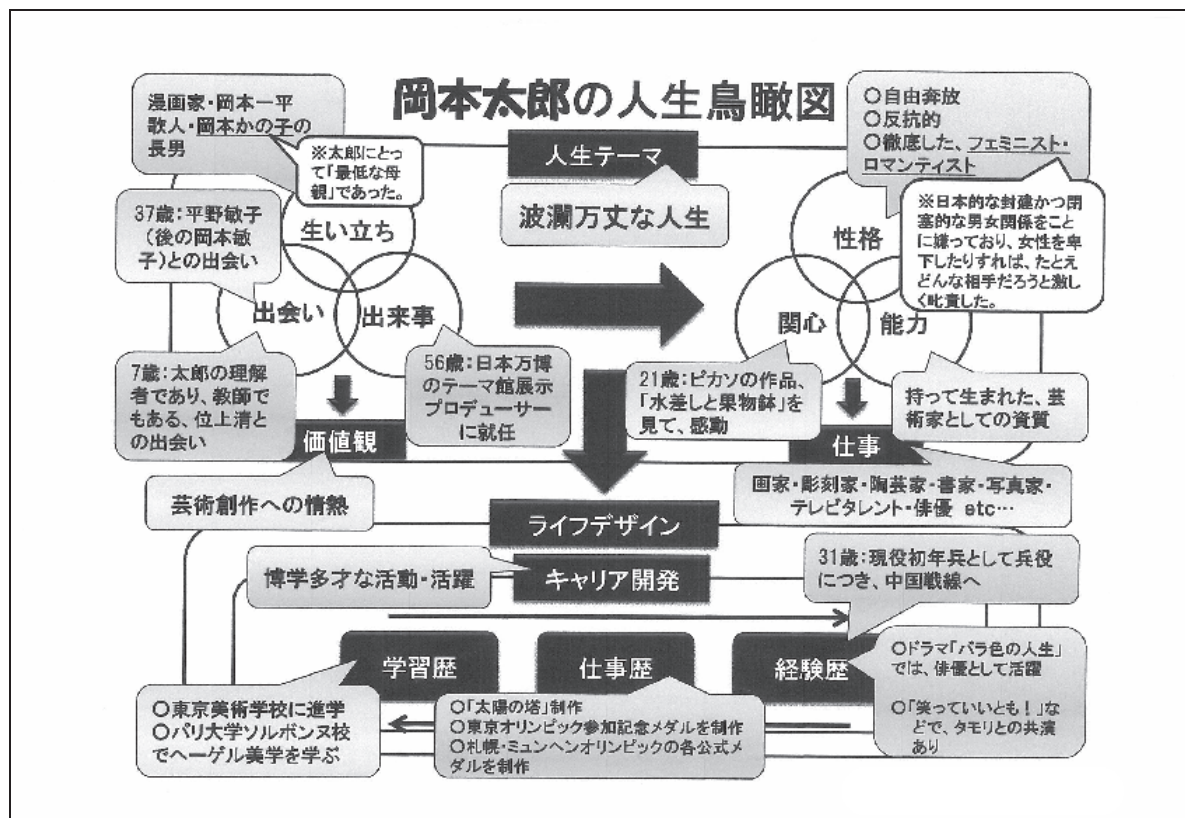
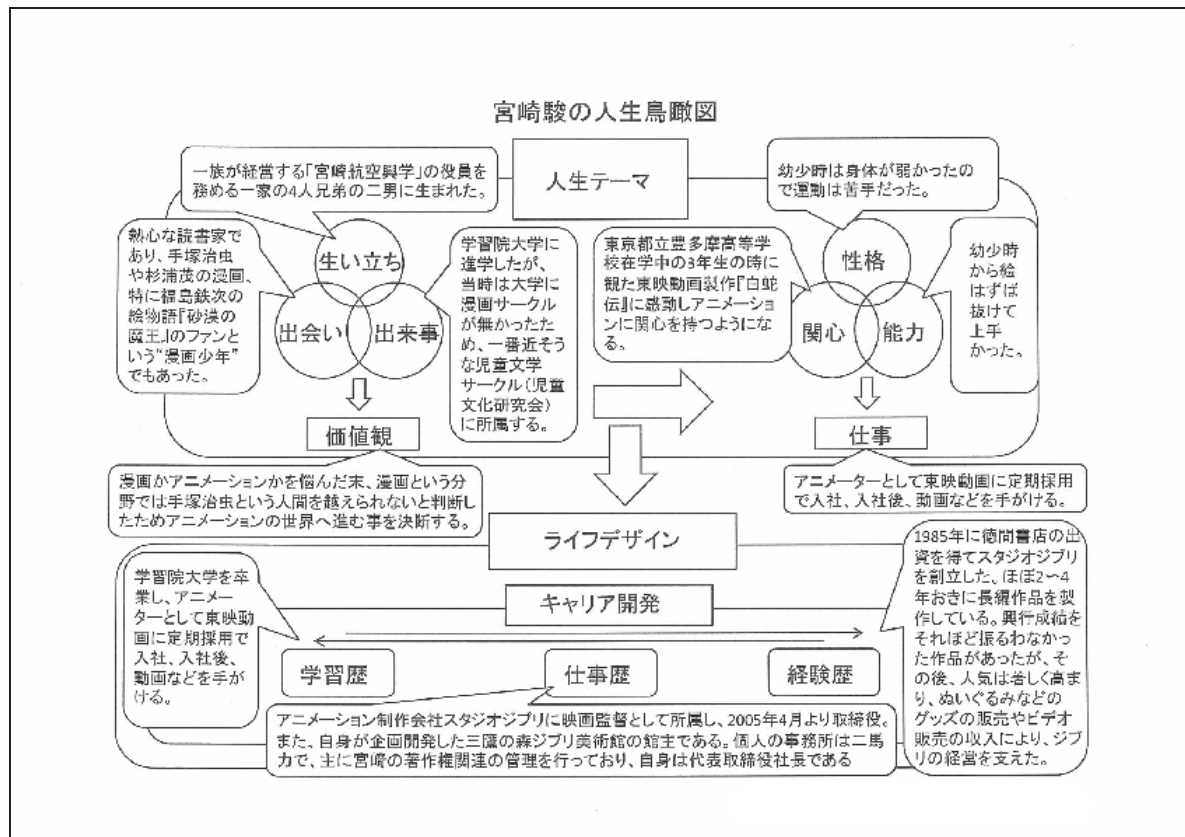
知らない人がほとんどでした。その人たちの考え方に触れて、少しでも吸収できたらと授業を受けました。その中でも「自分を貫き通す」という考え方に共感して大切にしていきたいと思いました。

YouTubeを利用した授業によって分かりやすい内容だった。

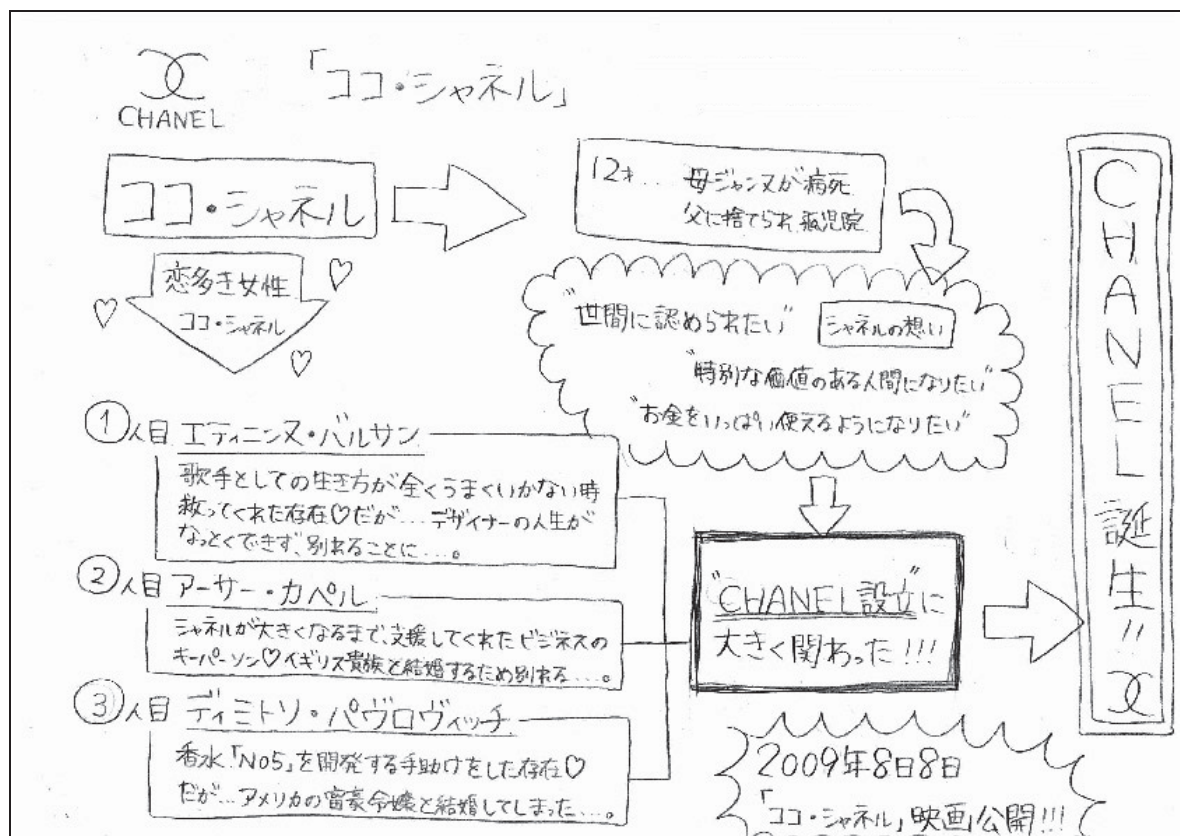
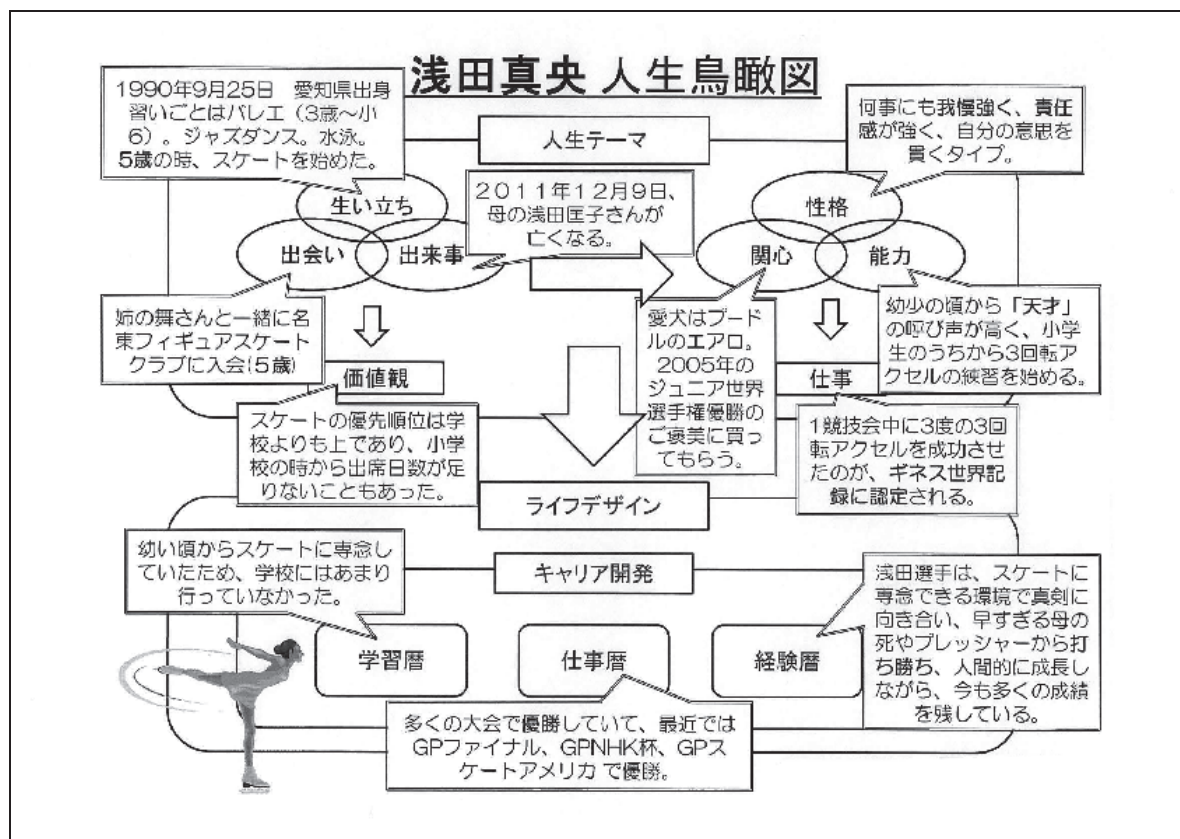
YouTubeを見て講義を受ける形態は非常に良いと思った。

初音ミクが出てきて驚かされた。

授業の成果として、受講生の描いた最終課題の図解を掲載する。  
最終課題は自身のロールモデルの人生鳥瞰図を作成する。







- ・ 到達目標である「自身のロールモデルを発見し、最終レポートとしてパワーポイントを用いて「私のロールモデル〇〇〇〇の人生鳥瞰図」を作成」はほぼ全員が到達している。
- ・ もうひとつの到達目標「ワードを用いて「私のロールモデル〇〇〇〇から学んだこと」をレポートできる力を身につける。」もほぼ全員が到達している。

以上に見るように、「近代日本を作った明治期を中心とするわが国の志を実現した偉人の生涯（経営者・政治家・芸術家・作家・ジャーナリスト）の資料や YouTube の映像を題材に、いくつかの切り口—仰ぎ見る師匠の存在、敵との切磋・友との拓磨、持続する志、怒涛の仕事量、修養・鍛錬・研鑽、飛翔する構想力、日本への回帰—を用いて今日の産業社会で生きるための問題解決の知恵について学び、自らの志とライフマネジメントについて深く考えてもらう。」という講義目的は十分に達成していると判断している。

授業評価（VOICE）の「この授業あなたにとって有益でしたか」という最終総合評価は以下の通りである。受講生の評価はまずはある程度の水準は確保していると判断している。

5 点満点。

2011 年	マネジメントデザイン論Ⅱ	3.57	履修者数	214 人	
2012 年	マネジメントデザイン論Ⅱ	3.99	履修者数	212 人	回答者数 97 人
2013 年	立志人物論	3.88	履修者数	272 人	回答者数 83 人
2014 年	立志論Ⅳ	3.15	履修者数	181 人	回答者数 34 人

## まとめ

毎回の講義を真面目に受講した学生は、「私のロールモデル」を見つけ、今日の産業社会で生きるための問題解決の知恵について学び、次第に、自らの志とライフマネジメントについて深く考えてるようになっていくことを報告したい。